

えが お



パソコンや携帯で「伊那市えがお」と検索するか、下のQRコードから入ると、令和4年度分からカラーでご覧いただけます。



令和6年度
No.5
11月26日

東部中学校「文化講演会」



東部中学校で、西原さつきさんを講師にお迎えして、「自分らしく生きていく Just be yourself with your story」と題して、PTA文化講演会が行われ、全校生徒と保護者が聴講しました。



会場を歩いて、クイズに答えてくれる生徒さんと話します。

期から自身の性に違和感があり、中学生で自分の性を偽ることの生きづらさに悩み、16歳から女性ホルモンの投与を始めました。家族や職場などで理解を得ることに苦労をしながらも、自分の心に素直に生きることを大切にして頑張り、二〇一三年に開催されたトランスジェンダーの世界大会「Miss International Queen」に出場し4位入賞、二〇一五年には同コンテストで特別賞の「ミス・フォトジェニック賞」を受賞しました。二〇一六年に性別や年齢を問わず女性らしさを育む「乙女塾」を創設。自身のトランスした経験や、声優学校での学びから、ボイスレッスンや所作指導などを行っています。NHKドラマ10「女子的生活」に出演し、志尊淳さんのトランスジェンダー指導を担当し、草薙剛さんの主演映画「ミッドナイトスワン」では、脚本監修を担当しました。その他、菅公学生服や資生堂のトランスジェンダー企画への協力等、多岐にわたって活躍されています。

さつきさんは、前半では「LGBTQ+」の言葉の意味、その割合が10人に1人であること、からだの性・こころの性・好きになる性・表現する性といった多様な性のあり方等、基礎的な内容をクイズ形式でお話されました。それから、自分がどんなことに悩み、その悩みとどう向き合い、歩んできたか、ご自分の経験をお話されました。最後に、この人生だからこそ気づいたこととして、「人と比べなくなった」「コンプレックスは個性になる」「自分に素直になると毎日が楽しくなった」とまとめられ、講演会は終わりました。「LGBTQ+」のことやカミングアウトは信じられている証であること、自分らしく生きていくことの素晴らしさ等を教えていただきました。

後日のさつきさんのブログには、「みんな講演中もたくさんリアクションしてくれてありがとう。手を振ってもらえたり、ハートをくれたりしたのしかった。大きな花束も戴けました。感激！」というコメントが写真入りで載っていました。

ICT Conference 2024 in INA



伊那市の教職員研修として、「ICTカンファレンス」が、伊那小学校をメイン会場に、ライブ配信され、市内全小中学校の先生方が参加し、ICTを活用した授業実践について、学びました。

先生方は、事前に収録された伊那小学校5年生の算数の授業と伊那中学校3年生の英語の授業を、前日までに視聴してから、この日の授業研究会に参加しました。指導者として、信州大学教育学部附属次世代型学び研究開発センターから、小学校分



小学校授業研究会の様子



中学校授業研究会の様子

科会は森下孟（もりしたたけし）先生、中学校分科会は谷塚光典（やつかみつなり）先生をお招きし、ご指導いただきました。

小学校の授業では、平行線の中に描かれた形の違う二つの三角形の面積が、同じなのかそれともどちらかが大きいかを考える場面で、作図ツールを操作しながら、粘り強く課題解決に向かう児童の姿が見られました。また、中学校の授業では、英語弁論大会のスピーチ原稿を考える場面で、翻訳ソフトの使用やiPad上で友だちが考えた英文を参考にしながら、自分の原稿のレベルを高めていく生徒の姿が見られ、どちらも授業の中でICTが有効に活用されていました。

特別講演では、愛知県にある瀬戸SOLAN学園初等部副校長の三宅貴久子（みやけきくこ）先生を講師に「探究学習における学習環境デザイン」と題して、ご講演いただきました。SOLAN学園は、「世界を舞台に活躍できる人材」「自立・自律した学習者」の育成を目指しています。そのために、教職員の割合は日本人と外国人が半々、4学期制や柔軟な時間割の設定、カリキュラムや学習様式、教

材の唐木さんから、この林が今年で6年目となり、今の皆さんが1年生の時からはじまった活動だというお話を聞きました。その後、長野県林業士の金井さんから、木の名前や

室や教具など、様々な環境デザインの工夫に取り組み、1年生から個人探究の学習様式をおこなっています。三宅先生の熱量あふれる講演に対して、講演後は会場や各校の先生方からも多くの質問が出され、授業研究会と共に、よりよい授業づくりに向けて、意識が高まる充実した研修になりました。

伊那北小学校「里山整備作業」



伊那北小学校では、6年生の児童48名の皆さんが、「上牧里山づくりの会」の皆さんと、里山整備作業に取り組みました。

「上牧里山づくりの会」は、平成24年から、「炭焼き」や「椎茸づくり」等の活動を通して、児童の皆さんが地域や自然への関心を高めていくように学校への支援を続けていただいています。

この森は、令和元年度に松くい虫被害の拡大防止のためアカマツ林を伐採した場所で、伊那北小学校の児童の皆さんが新たな森林を育てる「森創り」の学習ため、学校林としてお借りし、毎年6年生が植林や下草刈り、枝切りなどの作業をして、様々な種類の木を育ててきました。



「上牧里山づくりの会」の唐木さん



長野県林業士の金井さん

今日の作業内容についてお話を聞きました。

この後、2ヶ所に分かれて、木に巻き付いたツルを剪定バサミで切って取り除いたり、木の下の方に生えている不要な枝をノコギリで切り落とししたりして、木が元気に育つように作業をおこないました。6年生の皆さんは、「里山づくりの会」の方々に、作業の仕方や切る木を教えてもらいながら、2時間の活動を頑張りました。

6年生の皆さんにとっては、今年が最初で最後の整備作業になります。この作業のことや学校の近くにある「冒険の森」で遊んだこと、「炭焼き」や「椎茸づくり」などの里山での貴重な体験は、小学校での大切な思い出になることと思います。



みんなで協力して、作業に取り組みます。



里山クラブの方から、作業のお手本を見せていただきました。

西箕輪中学校

「人権教育授業研究会」



市内小中学校の人権同和教育担当の先生方が委員になっている「伊那市学校人権同和教育研究推進委員会」では、人権同和教育の充実のため、年間5回の研修を行っており、第4回の研修は、西箕輪中学校で、授業公開と授業研究会が行われました。

西箕輪中学校のランドデザインの柱には、「他者を大切にする生徒」という言葉が位置づけられ、生徒会の取組では、平成22年に「西箕輪中学校人権宣言」を採択し、その精神が引き継

がれています。

2年生の生徒の皆さんは、人権同和教育月間、同和教育問題についての学習を進めてきて、授業公開では、長野県教育委員会が発行する、人権教育リーフレット「いまここから自分から」に掲載されている「草つき穴」という話を題材にして学習をしました。学校や地域で差別を受けていた子どもたちの気持ち、差別を見ていた友だちの気持ち、お墓の石段で「草つき」をしてできた「草つき穴」が今でも語りかけていることは何かを考え合いました。

生徒の皆さんは、先生の問いを真剣に考え、大勢の先生方が参観している中でも、堂々と発表していて、素晴らしいなと思いました。また、友だちの発表の後には自然に拍手があり、日頃から一人一人が大切にされていることが分かりました。

この授業でも、ICTが有効に活用され、iPad上に自分の考えを載せたり、載せられた友だちの意見を見たりしながら、考えを整理・修正し、思考を深めていく姿がありました。

授業後の研究推進委員会では、改訂された人権同和教育の副読本「あけぼの(6訂版)」の指導案作りや小学校での同和教育の学習について確認しました。その後の授業研究会では、グループに分かれて、授業内容や生徒の姿などについて意見交換が行われ、南信教育事務所学校教育課主任指導主事の



堂々と発表する素晴らしい！



真剣に友だちの考えを見て、自分の考えを整理し……



こんなにたくさんの先生方が参観している中でも……

西春近北小学校「人権講演会」



鎌倉大和先生から、ご指導をいただきました。各校の人権同和教育の充実に役立つヒントをたくさんいただいた研修会になりました。

西春近北小学校では、四者(同窓会・育成会・公民館・PTA)共催人権講演会に、災害NGO結(yui)代表の前原士武(まえはらとむ)さんをお迎えして、「被災地で役立つもの」というつながり生きる力」という演題で、全校児童、保護者、地域の皆さんが講演を聴きました。

前原さんは、沖縄県生まれで、美容師やアウトドアの添乗員を経て、東日本大震災をきっかけに、災害支援活動家・災害復旧復興コーディネーターとして活動を始めました。災害発生後24時間以内に被災地に駆けつけ、被害の概況の発信や今後必要とされる支援を見立て、様々な人たちとつながりながら、復旧・復興を進める支援調整業務を行っています。現地では道路の寸断などもあるため、被災地にはトラックにバイクを積んで駆けつけるとのこと、実際に能登にも、地震発生翌日の1月2日に駆けつけ、バイクで支援を開始したそうです。

前原さんは、今の仕事に就くまでの経験から、美容師の時には、相手の気持ちを察して考えることを、日本や世界各国を旅行していた時には、人間関係を出会いから作り上げることを、アウトドアの仕事をしていた時には、ロープワークやテント泊などの技術を、添乗員



この日も、直接能登から西春近北小学校に来校し、えがおで講演される前原さん！

「伊那市人権同和教育講演会」のご案内

演題 「子どもが安心できる社会の実現をめざして」

講師 NPO法人・子ども・人権・エンパワメント CAPながの

日時 令和7年1月11日(土) 午前10時～12時(午前9時半開場)

会場 伊那市生涯学習センター6階 (ニシザワいなっせホール)

※入場無料、申し込み不要、先着200名

CAPおとなワークショップでは、子どもを取り巻く様々な暴力について、ワークショップ形式(参加学習型)で学びながら、一緒に考えます。



の時には、人に説明したり動かしたりすることを学んだそうです。そして、「自分のやってきたことが力となって自分の中に残り、今役立っている。普段やっていることが、生きる力に繋がっているから、チャレンジしてできることを増やして下さい。」と児童の皆さんに呼びかけました。また、自分の住んでいるところはどんな土地なのか考えて、どんな災害が起きそうなのか、知っておくことが大切だというお話もされました。

前原さんが、各地で災害支援に携わる中でよく聞く言葉は、「まさか私たちの町が……、まさかここが……」という言葉だそうです。平時から、「受援力」外部の人の支援を受け入れる力、「連携」多種多様な方々との連携、「自助・互助」一人で出来ることを増やしたり、地域住民内の顔の見える関係を大切にしたりすること、といった備えが必要だということで、「有事より平時が大切」とであると講演を締めくくられました。